

## Ⅱ 解説編



いま、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現が求められています。  
そのためには、教師自らが、主体的・対話的で深い学びを行うことが大切です。

三重県教育委員会マスコットキャラクター

みえびい

## ○ 特別の教科 道徳（道徳科）の目標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

【学習指導要領 第3章 特別の教科 道徳】※（ ）内は中学校の目標

### ○道徳科の特質とは？

道徳科は、児童（生徒）一人一人が、ねらいに含まれる一定の<sup>(1)</sup>道徳的価値についての理解を基に、<sup>(2)</sup>自己を見つめ、<sup>(3)</sup>物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、<sup>(4)</sup>自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習を通して、内面的資質としての道徳性を主体的に養っていく時間である。【小解説 P78、中解説 P76】

#### （1）道徳的諸価値について理解する

《価値理解》内容項目を、人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること

《人間理解》道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解すること

《他者理解》道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は多様であるということを前提として理解すること

★道徳的価値が人間らしさを表すものであることに気付き、《価値理解》と同時に《人間理解》や《他者理解》を深めていくようにします。【小解説 P17、中解説 P14】

#### （2）自己を見つめる

★自分との関わり、つまりこれまでの自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら、更に考えを深めます。【小解説 P18、中解説 P15】

#### （3）物事を（広い視野から）多面的・多角的に考える

★児童が多様な価値観の存在を前提にして、他者と対話し協働しながら、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考えることが求められます。

★物事を一面的に捉えるのではなく、児童生徒自らが道徳的理解を基に考え、様々な視点から物事を理解し、主体的に学習に取り組むようにすることができるようになることが大切です。【小解説 P18、中解説 P16】

#### （4）自己の（人間としての）生き方についての考えを深める

★道徳的価値の理解を自分との関わりで深めたり、自分自身の体験やそれに伴う感じ方や考え方などを確かに想起したりすることができるようにするなど、特に自己（人間として）の生き方についての考えを深めることを強く意識して指導することが重要です。【小解説 P19、中解説 P17】

以上の学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てるのが道徳科です。

★「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度」とは？【小解説 P20、中解説 P17】

・道徳的判斷力…それぞれの場面において善悪を判断する能力である。

・道徳的心情…道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情のことである。

・道徳的実践意欲と態度…道徳的実践意欲は、道徳的判斷力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働きであり、道徳的態度は、それらに裏付けられた具体的な道徳的行為の身構えとすることができる。

## ○ 道徳科の授業をどのように構想するか

### 1 明確な指導観をもつことが大切です！

(1) ねらいとする道徳的価値について、授業者が  
学習指導要領に基づき明確な考えをもちます。

= 道徳の内容を理解する

価値観

(2) 明確な価値観を基に子どもたちにどのように  
指導し、子どもたちが何を学び、その結果と  
してのよさや課題を確認し、本時で学ばせた  
いことを明らかにします。

= 日頃の道徳教育を振り返る

児童観  
生徒観

(3) 授業者の明確な価値観、児童観・生徒観をも  
とに、教材の活用の仕方を明らかにします。

= 指導の意図を明確にした  
教材活用の学習展開をめざす

教材観

指導観

道徳的価値に関わる授業者の考え方（価値観）に基づいた指導の結果としての、児童生徒の姿（児童観・生徒観）を明確にし、児童生徒に考えさせるべきことを確かにもつことが重要です。



では、どのような学習指導を行えばよいのかな？

学校全体で道徳科の指導方法について共通理解を図っておくと、児童生徒の発達の段階に応じた継続的な指導が行えます。



## 2 道徳科の特質を生かした学習指導を行いましょ！

## 導入

導入の段階では、本時の主題に関わる問題意識をもたせる導入、教材の内容に興味や関心をもたせる導入などが考えられます。

## 展開

展開は、ねらいを達成するため中心となる段階であり、中心的な教材によって、児童生徒一人一人が、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に、自己を見つめる段階であると言われます。

具体的には、児童生徒の実態と教材の特質を押さえた発問などをしていきます。教材に描かれている道徳的価値に対する、児童生徒一人一人の感じ方や考え方を生かしたり、物事を多面的・多角的に考えたり、児童生徒が自分との関わりで道徳的価値を理解したり、自己を見つめるなどの学習が深まるように留意します。

内容項目が人間としてよりよく生きるうえで大切なことであることや、道徳的価値は大切であっても、なかなか実現することができない人間の弱さがあることなどを理解し、児童生徒一人一人が価値理解、人間理解、他者理解を自分との関わりで捉えます。

(展開の例)

- 登場人物の変容前の状態（残念なところ）に注目し、残念な言動をした時の「心」を問う。  
↓  
<人間理解>
- その人物が最も大きく変容したところに注目し、その言動をした時の「心」を問う。  
↓  
<価値理解>
- 教材を通して考えた道徳的価値について、これまでの自分、現在の自分を見つめる。  
<自己を見つめる>

## 終末

終末の段階では、学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめたり、学んだことを更に深く心にとどめたり、これからへの思いや課題について考えたりします。



学校の教育活動全体の中で地域の方と関わったり、道徳科の授業で保護者や地域の方とともに考えたりするなど、異世代の意見の交流から得られる気づきは多くあります。学校は、地域とともにどのような子どもを育てたいのかを、日頃から地域に発信することで多くの方が学校や児童生徒に関われるようになります。

★ 展開の段階での、発問を考える過程（例）

「ブラッドレーのせい求書」（『わたしたちの道徳』小学校3・4年）を例に、発問を考えてみます。

① まずは、**中心的な発問**について、どのような発問にするかを考えます。

一、登場人物が最も大きく変容したところに注目し、その言動をした時の「心」を問う。

…<前略>…

お金といっしょに、一まいの小さなせい求書がありました。  
それには、次のように書かれていました。

お話の前半で、ブラッドレーの残念なところが描かれています。

お母さんからのせい求書

親切にしてあげた代	0ドル
病気をしたときのかん病代	0ドル
服や、くつやおもちゃ代	0ドル
食事代と部屋代	0ドル
合 計	0ドル

お母さんからのせい求書を読んで……、



これを読んだブラッドレーの目は、なみだでいっぱいになりました。

ブラッドレーの目が「なみだでいっぱい」になったことに注目し、このときのブラッドレーの「心」を問います。



<中心的な発問の例>

「目がなみだでいっぱいになったとき、  
ブラッドレーはどんなことを考えていたと思う？」

## ② 次に、中心的な発問の前に行う発問について考えます。

道徳的価値により迫るために、**中心的な発問をする前の発問**（「基本的な発問」などといいます）を行うことが一般的です。中心的な発問を考えたら、次にその前に行う発問について考えます。

二、登場人物の変容前の状態（残念なところ）に注目し、残念な言動をした時の「心」を問う。

残念なところ（例）

- ある朝、二階からおりて朝食のテーブルについたところ（お母さんにせい求書を渡そうという気持ちが表れている）
- せい求書を、お母さんのお皿の横に置いたところ
- せい求書の内容
- ブラッドレーが、自分の取り引きがうまくいったと考えて、喜んだところ



ブラッドレーの残念なところに注目し、このときのブラッドレーの「心」を問います。

<基本的な発問の例>

- ブラッドレーは、二階から降りてきたとき、どんなことを考えながら降りてきたのかな？
- お母さんのお皿の横にせい求書を置いたとき、どんな気持ちだったのかな？
- どんな気持ちでせい求書を書いたのかな？
- （ガッツポーズのイラストを見て）どんなことを考えているだろう？

※同じような反応が考えられる発問が複数考えられる場合、1つに絞ると効果的です。

※残念なところが複数ある場合は、後半の部分で問うと、まとめて問うことができます。

## ③ 次に、これまでの自分、現在の自分を見つめるための発問を考えます。

基本的な発問や中心的な発問を通して、道徳的価値についてじっくり考えられたら、教材を通して考えた道徳的価値について、これまでの自分、現在の自分を見つめるための発問をします。なお、このとき、これからの行動（あなたはどうしていきたい？等）を問うと、建前が出やすいので留意してください。

<展開の段階で、自己を見つめるための発問の例>

あなたはこれまで、家族とどんな接し方をしてきたかな？

その授業で目立った変容がたとえ見られなくても、人生において選択が迫られる際に、この授業で考えたことや葛藤が生きてきます。



### 3 道徳科の特質を生かした学習指導過程を大切にしましょう！

桑名市立星見ヶ丘小学校（平成 27～29 年度三重県道徳教育総合支援事業実践推進校）作成資料から

全体計画の別葉に位置付けて指導する

## 各教育活動で行われる道徳教育

道徳科以外の時間

導入

展開前段

日常的教育活動

本時の展開

道徳科と各教科等と関連をもたせた道徳の指導

「各教科等の特質に応じて道徳の内容に関わる事項」を明確にする

● 日常の体験を生かした指導

日常的な生活場面で

- \* 児童が自由に行動できるもの（朝の始業前、休憩時間など）
- \* 一定の行為が課せられるもの（給食時間、掃除の時間など）

● 各教科等と関連をもたせた指導

各教科等における道徳の指導は、各教科等それぞれ固有の目標やねらいの実現を目指しながら、それぞれの特質に応じて適時適切に指導を行う。

● 家庭や地域と連携した指導

- \* 学校だより等を通じて道徳教育に関する情報を積極的に発信する。
- \* 道徳科の授業を公開する。

主題に対する児童の興味や関心を高め、ねらいとする道徳的価値の理解を基に自己を見つめる動機付けを図る段階

- 場面を簡単に紹介し、登場人物の挿絵と名前を板書して概要をおさえ、教材への方向付けをする。

- 自分との関わりで考えられるようにその時の気持ちを想起させ、価値への方向付けをする。
- ・ 主人公を明示したり、主人公の人間関係、時代背景などを簡潔に説明したりする。

ねらいとする道徳的価値や教材の特性によって導入の指導方法は異なります。

児童一人一人が、教材に描かれている主人公の生き方からねらいとする道徳的価値を追求し、道徳的価値を把握する段階

- 主人公の立場になって共感し、ねらいとする道徳的価値を追求・把握して、道徳的価値の自覚が深まるようにする。

- ・ 教材から主人公の「素晴らしいところ（価値理解に関する場面）」と「残念なところ（人間理解に関する場面）」を感想として発表し基本発問につなげ人間理解について深める。
- ・ 中心発問（価値理解に関する場面）から価値の大切さを理解する。

問い返しや深めの補助発問が大切です。

《道徳的価値への方向付けを図る発問》

《感想発表と道徳的価値の自覚を深める発問》



今日は、プロ野球選手として、日本やアメリカで大活躍した松井秀喜さんの話です。人間として素晴らしいと言われる松井さんから、誠実ということについて考えましょう。

みなさんは、どんな係や当番の仕事をしていますか。

「わたし」のことで、素晴らしいなと思った場面や残念だなと思った場面を話しましょう。



道徳的価値の自覚を深める発問では、「感想を問う発問」から入り、「人間理解に関する発問」と「価値理解に関する発問」をします。



校長の方針の下に、道徳教育推進教師を中心に、全教師が協力して道徳教育を展開することが必要です。

## を 補充、深化、統合します



展開後段



終末

「今の自分を見つめる」  
「今後の自分に生かす」

道徳科の評価

授業改善に向けて

教材の内容から離れてねらいとする道徳的価値を含んだ生活経験やそのときの考え方や感じ方を振り返って、ねらいとする道徳的価値の自覚を深める学習を中心とする段階

- 教材の内容から離れ、追求・把握した道徳的価値に関わるこれまでの自分、そして現在の自分はどうかを見つめる。
- 把握した道徳的価値に関わってこれまでの自分を振り返ることができるように、ねらいに関わる児童の姿を紹介したり、振り返りカードに書いたりして見つめる。
- ねらいに関わってできたことやできなかったことを問い、そのときの考え方や感じ方が今はどうかを考えさせる。

読み物教材を通して学んだ道徳的諸価値について、自分のこれまでの生活経験や現在の日常生活にあてはめ、自分自身の現在や日常生活に出会うであろうとする場面において、どのように実現させるかを見つめることや振り返ることは大切なことです。

ねらいとする道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認したりして、今後の発展につなぐ段階

- 追求した価値を確認し、意欲づけを図る。
- ごく短時間でまとめるようにする。決意表明や行為の強制はしない。
- ねらいとする道徳的価値について行為として現れている児童の姿を紹介したり、教師の体験談やことわざを紹介したりする。

学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめたり、学んだことをさらに深く心にとどめたり、今後の思いや課題について考えたりするように指導します。また、ねらいとする道徳的価値に向かって取り組んでいる児童の姿を紹介したり、ねらいに関わった内容を教師の体験談として話したり、ねらいに関わって取り組んでいる地域の方などの話を簡潔にビデオに収録して流したり、本時のねらいとする道徳的価値に関わることわざなどを紹介したりするなどして道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題を培っていくようにします。

児童の成長を見守り、児童が自らの成長を実感し、さらに意欲的に取り組もうとするきっかけとなる評価

●学習指導過程に関する評価

児童の学習状況を的確に把握し、授業改善につなげていくために、基本的な学習指導過程に基づいて評価の観点を設定する。

●児童の学習状況に関する評価

学習指導過程における学習状況の観察や問いかけに対する発言、動作化や役割演技などの表現活動、振り返りカードなどを基に学習状況を把握し可能な限り見取る。

●児童による本時の振り返り

振り返りカードを作成し、「自分の行動を振り返って」と「学習を振り返って」の項目を設定し、児童自らがねらいとする本時の授業に正対し学習意欲や態度などから自分を見つめていくことにした。

《把握した道徳的価値から自己を見つめる発問》



家族に対して「ありがとう」という気持ちがありますか。また、家族の一人として家の仕事をやっていますか？



この学級にも仲間のことを考えて一生懸命活動している人がいます・・・



振り返りカードから授業改善を進めることが大切です。



「あかいクレヨン」(1年)

- 主題名 心をつなぐあいさつ
- 内容項目 B 礼儀

年間指導計画

導入

展開前段

教材や教材にえがかれている中心的人物について知る。

- 日頃、気持ちよいあいさつや言葉遣いに心がけているかを思い起こさせ、道徳的価値の方向付けをする。

教材「あかいクレヨン」の読み聞かせを聞き、話し合う。

- ペープサートを使った読み聞かせを通して、主人公の生き方から道徳的価値を追求し、把握する。教材を提示する工夫

1

T 普段、先生とお話するときどんなことに気がつけていますか？友だちと話するときに気がつけていることはありますか？

C お話するときに、しっかり声を出してしゃべれるようにします。

C みんながいやだと思わないようにお話します。

- 「つぶやき」を基本発問につなげ、ねらいとする道徳的価値追を追求し、道徳的価値を把握する。

2

T これからきつねさんがいろいろなことをします。そのとき、「だめだよ」とか「いいね」とやさしい声で、きつねさんにお話ししてください。

C きつねさん、悪い！だめだよ。勝手にたぬきさんのクレヨン持って行ったら！

各教科等・日常の指導との関連

- ◆各教科等での指導
  - ア 図画工作科
    - 授業で絵を描く時に、クレヨンを忘れてきた子が隣の子にクレヨンを借りる場面での指導。
  - イ 生活科
    - 「こうえんたんけん」の学習で地域の人に会ったときのあいさつ指導。
- ◆日常の指導
  - ア 朝の会
    - 朝のあいさつが丁寧にできる子を紹介し、あいさつの輪を広げる。
  - イ 各教科のはじめや終わりに
    - 日直の号令のよさを褒めて気持ちのよいあいさつを指導していく。

つぶやきを生かす工夫

やさしいことば

- ありがとう
- 「はい、どうぞ」目を見て →うれしい
- 「おいしいね」 →うれしい

やさしくいうとうれしいな

「べつにいいや たぬきさんのきもち

「あかいクレヨンがない どうしよう

「あいはな かけない

「たぬきさんほくにみずいろのクレヨンかしてくるる

「めをみていえばよかった ぼくも同じようにすればよかった。 なんととってしまったかな。 どうしよう。

「もうかいやりなおしたい

「展開後段」部分の板書

「展開前段」部分の板書



幼児期から継続的に、自分の思いをしっかり表現できる子どもを育てることが大切です。そのために、学校段階間の接続を意識し、幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施していくことが大切です。

3

T みんなで絵を描きはじめたとき、きつねさんはどんな気持ちだったでしょう。

C 楽しみだなあ。  
C どんな花をかこうかな。  
C たくさん花をかこう。

発問の工夫

4

T ためきさんのクレヨンを手元に借りてしまったきつねさんは、どんな気持ちだったでしょう。

C 別にお絵かき好きだし、わたしはクレヨンがあって描けるし、ためきくんにはもう言ったからいいや。

人間理解・他者理解

教師がうさぎ役、児童1名をためき役に指名し、気持ちのやりとりを行う。その後、学級全員できつねの役割演技をし、きつねに共感させることで、気持ちのよいあいさつをすることのよさに気づかせる。

役割演技の工夫

5

T うさぎさんとためきさんがお話ししているのを聞いていたきつねさんは、どんな気持ちだったでしょう。先生がうさぎ役、一人がためき役をします。みんなは、きつねさんになったつもりで、ためきさんにお話ししてみましょう。

価値理解・他者理解

C いいよ。はいどうぞ。  
C どうして赤いクレヨン取っちゃったのかな。  
C ほくもうさぎさんと同じようにしたらよかった。



ためきさん、ほくに水色のクレヨン貸してくれる？

展開後段

道徳的価値を基に、これまでの自分を振り返って考える。

- 教材から離れ、児童一人一人の生活における道徳的価値の自覚を図る。

6

T 気持ちのよい言葉遣いで話をしてもらってよかったと思ったことはありますか。

C 手袋を「はい、どうぞ。」と言って貸してくれました。

友だちや周りの人に気持ちよい言葉遣いや態度で接している児童の行動を紹介し、自分の経験を振り返ることができるようにする。  
・「〇〇さんはいつも目を見て「おはようございます」と言ってくれます。朝から元気な気持ちになります。

児童の事例の紹介

十一月十六日

「あかいクレヨン」 どうとく

「こえ」 はなしをきく

「おえかきすき」 やりたい

「いっばいかきたい」 ないな

「たのしみ」 たのしみ

「あとできつくからいいや」 たのしみ

「これかして」

「導入」部分の板書

終末

教師の説話を聞く。

- ねらいとする道徳的価値の整理、まとめをする。

学級の中で、友だちや周りの人に気持ちのよい言葉遣いや態度で接している児童の行動を振り返りながら自己をみつめられるようにする。  
・「何気ない言葉だけど、やさしい言葉で言ってもらおうとうれくなるね。これからも言葉遣いに気をつけるといいですね。」

教師の話の工夫

7

T 気持ちのよい言葉遣いで話をしてもらってよかったと思ったことはありますか。

授業の中で、自分の考えを言えること、互いに意見を尊重しあえることが、自己肯定感を高めることにつながります。





道徳科の時間は、自分の考えを持つこと（自己理解）から互いの意見を聴き合うこと（他者理解）、そして他者の考えを聴き自分の考えを整理すること（確かな自己理解）のプロセスを経たうえで、授業のねらいに迫ることをめざします。



●道徳的価値を追求、把握する。

《道徳的価値の自覚を深めるための発問》  
T1：おつりを間違えていたと気づいた「エイブ」は、どんなことを考えましたでしょうか。  
〔人間理解・自己理解〕

発問の工夫

- 主人公の気持ちが多様にあることに気づき、自分だったらどんな気持ちになるかを自覚させる。そのために、役割演技をさせる前に、「6セント半という金額と知って、どんな気持ちが出てくるかな」と問いかける。

役割演技の工夫

- 教師と代表者との役割演技を見て多様な気持ちを出させていく。
- 役割演技をさせる前に、今の自分の気持ちはどちらに近いかをはっきりさせ、気持ちの変容にせまらせていく。
- 正直だけでなく、責任や思いやりなど多角的な意見が出ると思われるが、多様な意見を受け入れつつ主人公の思いに迫らせる。

T2：おつりを返した後、エイブはどんな気持ちになったでしょうか。〔価値理解・他者理解〕

- 補助発問として、田舎町でぼつんとしか家がないことや、冬の寒い夜であることを押さえ、それでも届けに行く強い意志があることに気づかせたい。
- 補助発問として「お金を返さないままいたらどんな気持ちになるかな」と問うことにより、返さないと明るい気持ちにならないということに気付かせたい。

展開後段

終末

道徳的価値を基に、これまでの自分を振り返って考える。

- 「正直、誠実」に関わった経験を振り返り、これまでの自分を見つめ、価値の大切を理解する。

T：今までに正直に行動できたことがありますか。

展開後段の工夫

- 「エイブ」のように正直に行動できたかどうかを問い返し、正直に言えた時の気持ちを大切にさせたい。
- 黙っていると何となく気分がすっきりしないといった気持ちに迫るように、正直に言えた時と言えないままでいる時との気持ちの違いについて発言させたい。
- ワークシートを使って振り返らせる。

C：家でピアノで本当はもう一曲引かなければいけないのに、早く終わりがかったので「もう終わったよ。」と言いました。今思うと、言った方がよかったかな。今度からはちゃんと言おうと思いました。

C：学校でサッカーをしていてボールが木に当たって木が折れてしまいました。今思うと、先生に正直によく言えたと思う。

教師の説話を聞く。

- ねらいとする道徳的価値の整理、まとめをする。

T：先生、土曜日、日曜日になると買い物をするんですけど一週間に一回の買い物なので、すごい買い物をするのね。レジで払うと7000円とか8000円とかになるのね。みんなのおうちのお母さんなんかはどうか。そのときにね、お豆腐を三丁買ったんです。3丁買ったんだけど、レジのおばさんがビィビィ、ビィビィやっているうちに、「うん。」、3丁入れられたかな。2丁で計算しなかったかなと思って待てる時にドキドキ、ドキドキしてどうしようかな。言わないでどうしようかな。でもお豆腐って1丁50円くらいだし、7000円のうちの50円で、どうしようかな。どうしようかな。とドキドキしてたときに、チン、「すみません。お豆腐って3丁けいさんしてありますか。」って聞いたの。そしたら、レジの人が調べてくださって「2丁です。」って。「ああ。私、3丁買ったんですけど。」と言ったら、「よく教えてくださいました。」って感謝され、自分もやっぱり言うてよかったなと思って。待っているときにドキドキして、このままラッキーって帰って行ったら、たぶん、もやもやして、やっぱり言うてけばよかったかなと思ったと思うのね。みんなも正直に言うことは心がすっきりすると思いました。

五月十日  
第五回 道徳  
「六セント半のおつりーリンカーンの話」

おつりをまちがえた  
気づかなかった  
しまった  
どうして  
どうしよう  
まよう

返しに行く  
返しに行かなくても

今かえさないと  
夜おそいし  
ちゃんと返そう  
行かないほうが  
六セント半なのに  
次の日でも  
大切だから  
夜中だし  
大事なお客さま  
寒い日だし  
気づかれるかも  
十キロもはなれている

「展開前段」部分の板書

「導入」部分の板書

第五回 道徳 振り返りカード (4年1組 道徳科)

教科名 「6セント半のおつりーリンカーンの話」

【おつりを返さないまま、あつたおつりがどうなるかどうかわかりましたか？】

いつ	どこで	何かに	どんなことを

〈学習をふりかえって〉

1	想像授業では、すすんで手をあげることができた。	A・B・C・D
2	友人になりきって、気持ちを話すことができた。	A・B・C・D
3	ペア対話で話し合いでは、自分の自分の考えを、相手の話を聞いてどのように変わったのかを話すことができた。	A・B・C・D
4	話し手を見て、うなずきながら聞くことができた。	A・B・C・D
5	これまでの自分についてふりかえることができた。	A・B・C・D

A・・・よくできた B・・・できた C・・・もう少し D・・・できなかった

氏名

「くずれ落ちた段ボール箱」(5年) ●主題名 だれに対しても  
●内容項目 B 親切, 思いやり



年間指導計画

導入

展開前段

教材や教材にえがかれている中心的な人物について知る。

●事前アンケートの結果と教材のあらすじについて紹介し、価値への方向付けと教材への導入を図る。

T: 今日のお話の主人公もみんなと同じように困っている人のために行動しようとしています。

T: 主人公は、「わたし」です。友達のもとさんとショッピングモールに出かけた時、困っているおばあさんを見かけるのですが、2人はどうするのでしょうか。

教材を提示する工夫

- 「頼まれていなくても相手のことを思って動けるか？」のアンケート結果を伝える。
- 教材名と主人公について簡潔に説明し、道徳的価値への方向付けを効果的に行います。



教材「くずれ落ちた段ボール箱」を読んで、話し合う。

●教材を通して、児童一人一人が主人公の生き方から道徳的価値を追求し、把握する。

●感想、問題を出し、追求課題をもつ。

(感想発表)  
T: 「わたし」のことで素晴らしいなと思った場面や残念だなと思った場面を話しましょう。

感想を生かす工夫

- 段ボール箱を倒したわけではないのに、友達さんと直したところが「素晴らしい」(価値理解)
- こんなことなら手伝わなければよかったと思ったところが「残念」(人間理解)



各教科等・日常の指導との関連

◆各教科等での指導

ア 国語科

「あめ玉」の授業を通して、さむらいの親かな行動を読み取らせた。

イ 学級活動

「敬老の日」、「運動会の練習」について、「私たちの道徳」を活用して、自己を見つめ、相手の立場に立ち行動しようとする意欲をもたせた。

◆日常の指導

ア 朝の会・帰りの会

- ・「今日の一番星」コーナー
- ・「美しい心を見つけた」の掲示  
友達のよい行動や友達にもらったことを紹介し、親切にすることの大切を感じる。

板書例

板書は構造化し、児童が道徳的価値の自覚が深められるように書く。



困っている人を助ける  
相手のことを考えて行動する

- 友達のものを倒した
  - 見つかるかな
- 席をゆずった
  - 立っているより
- 小さい子を手伝った
  - おこられなかった

困っている人を助けてよかった  
手伝わってよかった  
おばあさんは困っていたから、おばあさんは本当のこと伝えてくれてよかった。  
じまんできる。

手紙を聞いてうれれれになった「わたし」

「展開後段」部分の板書



上の例のように、発達段階に応じて意図的・計画的に道徳教育を行うことが大切です。例えば、他の教科等で、ねらいに関わる新聞記事の切り抜きを収集し発表する取組で意識を高めた後などに、道徳科で補充・深化・統合すると効果的です。



学校の生活の中で、できるようになったことを認めることで自己肯定感が高まります。また、みんなのために仕事をやり遂げたり、友だちから感謝の言葉をもらったりすることで自己有用感が育まれます。



## ○ 特別の教科 道徳（道徳科）の評価

児童（生徒）の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

【学習指導要領 第3章 特別の教科 道徳】※（ ）内は中学校

### ○道徳科の評価の基本的な考え方

#### 数値による評価ではなく、記述式とすること

- 個々の内容項目ごとではなく、**大きくりなまとまり**を踏まえた評価とすること
- 他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかにか成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます**個人内評価**<sup>(※)</sup>として行うこと

#### (※) 個人内評価

観点別学習状況の評価や評定には示しきれない子どもたち一人一人のよい点や可能性、進歩の状況について評価するもの。

#### 留意点

- 調査書に記載せず、入学者選抜の合否判定に活用することのないようにすること
- 発達障害等のある児童生徒が抱える学習上の困難さの状況等を踏まえた指導及び評価上の配慮を行うこと

道徳科において、児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子をどのように見取り、記述するかということについては、以下のような視点が考えられます。

#### <評価の視点>

##### 児童生徒が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか

- 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしているか
- 自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしているか
- 複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を広い視野から多面的・多角的に考えようとしているか

##### 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか

- 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしているか
- 現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直しているか
- 道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めているか
- 道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしているか

【小解説P 111、中解説P 113】

前頁の視点は、児童生徒を対象とした評価の視点の例ですが、文末等を替えることによって、学習指導過程や指導方法に対する評価の観点と捉えることができます。

(例)

自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしているか



自分と違う立場や感じ方、考え方が理解できるような学習指導過程となっているか

(例)

読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしているか



読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解できるような発問となっているか

+++++

**学習における評価とは**

**<教師にとっては>**

指導の目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料となるもの

**<児童生徒にとっては>**

自らの成長を実感し、次の学習の意欲の向上につなげていくもの

学習指導要領第1章総則に、学習評価を指導の改善につなげることについて記述があるように、教師が自らの指導を振り返り、指導の改善に生かしていくことが大切です。

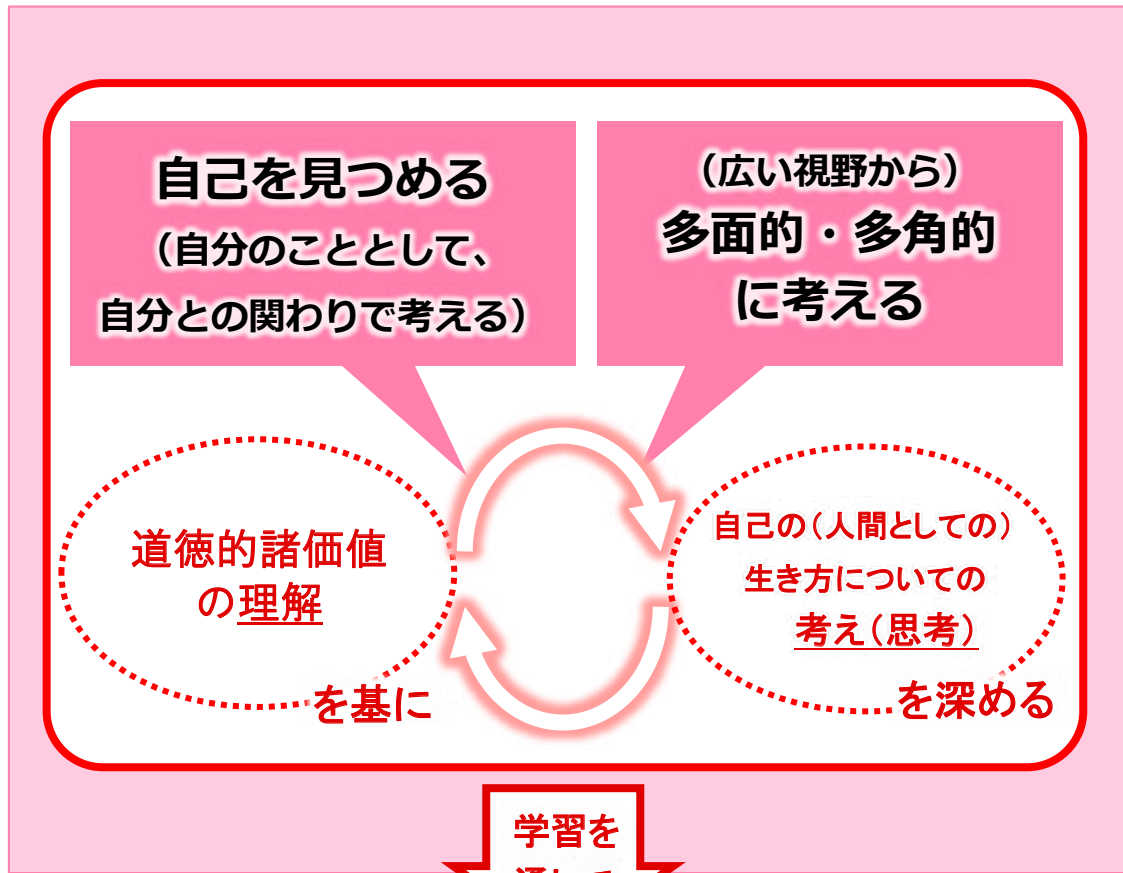


学校全体で、どのように評価を行うかについての研修を深めることで、指導方法が見えるとともに、保護者にとっても子どもの成長などがわかるうれしい評価となります。

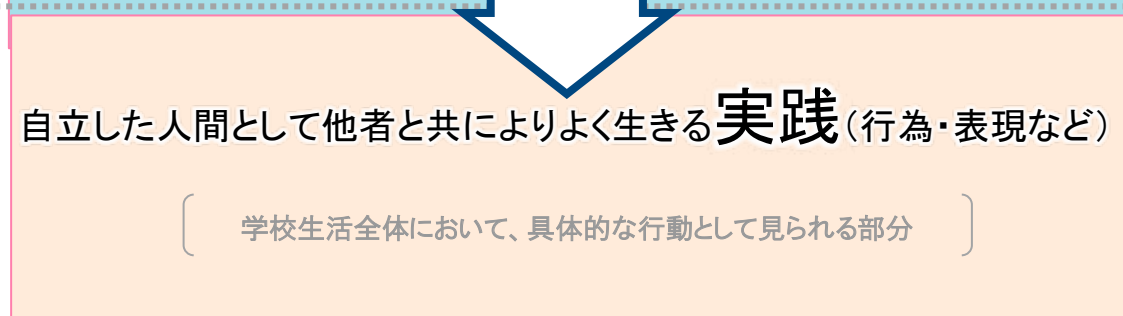
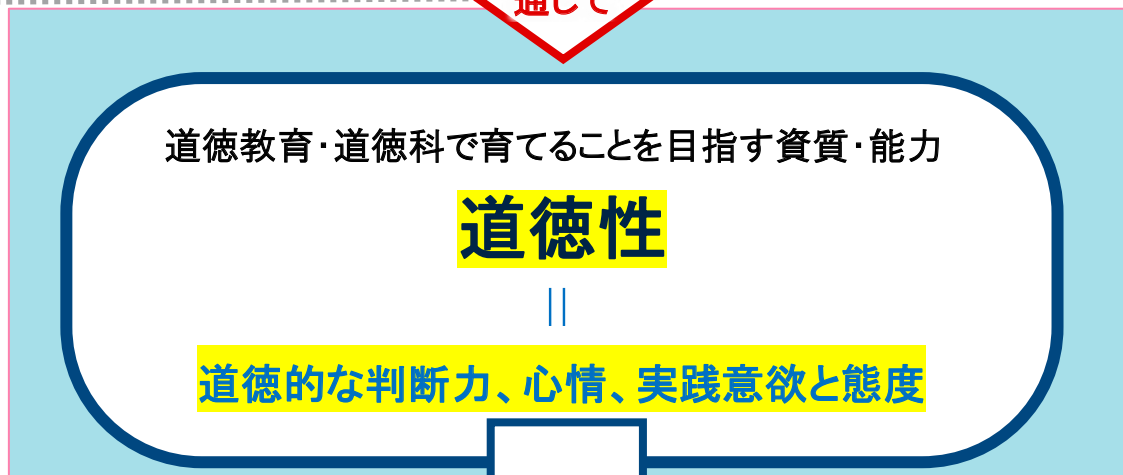




## 道徳科の学習活動と評価のイメージ



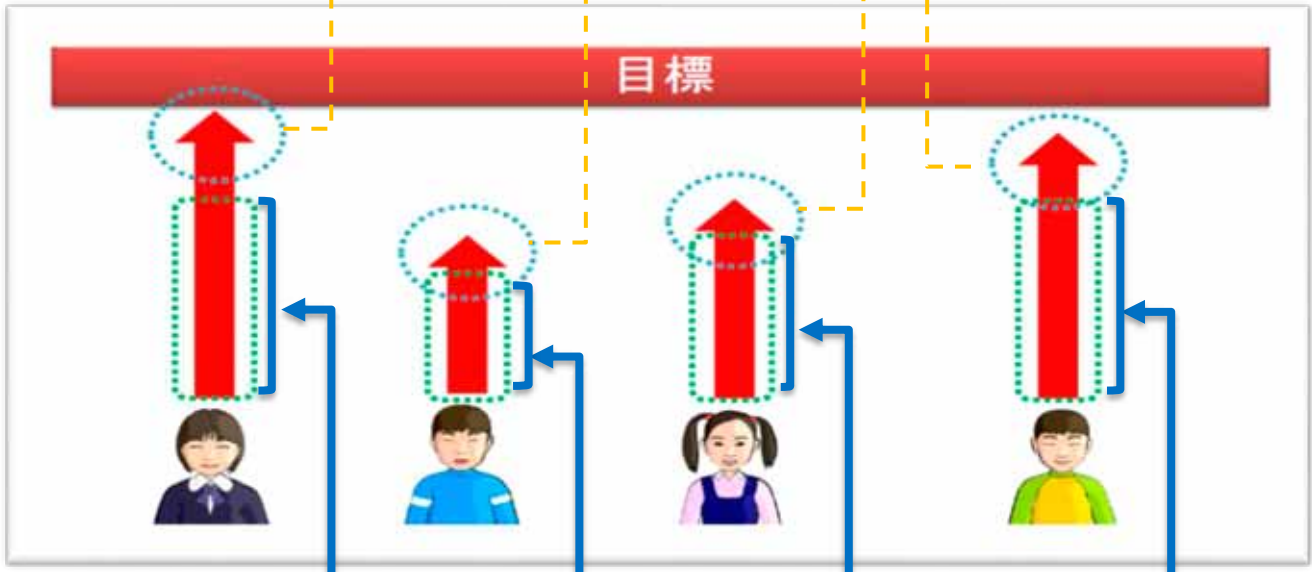
積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行う  
道徳科の「学習状況及び道徳性に係る成長の記録」



児童生徒の  
具体的な行動に関する  
「行動の記録」

道徳科の評価は、「目標に準拠した評価（いわゆる『絶対評価』）」ではなく、児童生徒がいかに成長したかを、積極的に受け止めて認め、励ます「個人内評価」として実施します。

目標に対し、どこまで到達したかを評価するわけではありません



○ ここを積極的に受け止めて、認め、励ます評価を行います

文部科学省資料から作成

学習評価の基本的な考え方

- 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- 児童生徒の学習改善につながるようなものにしていくこと
- これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

評価は、先生自身の指導を振り返るためでもあるんだよ！



子どもたちが出し合った思いを学級の中でつなげ、自分との関わりで考える場面があると多面的・多角的に考えられるようになるなあ。

授業で議論する中で、児童生徒に、様々な考え方があることに気づかせることが必要だなあ。

失敗を見つめることで学ぶことは多いものです。子どもたちも議論する中で、自分の失敗したことを素直に語れると深い学びができるかな。

授業の中で、「自分が、自分に、自分のことを問う」ことを行い、自分の考えを基に話し合ったり、書いたりするなどの活動を充実させたいな。

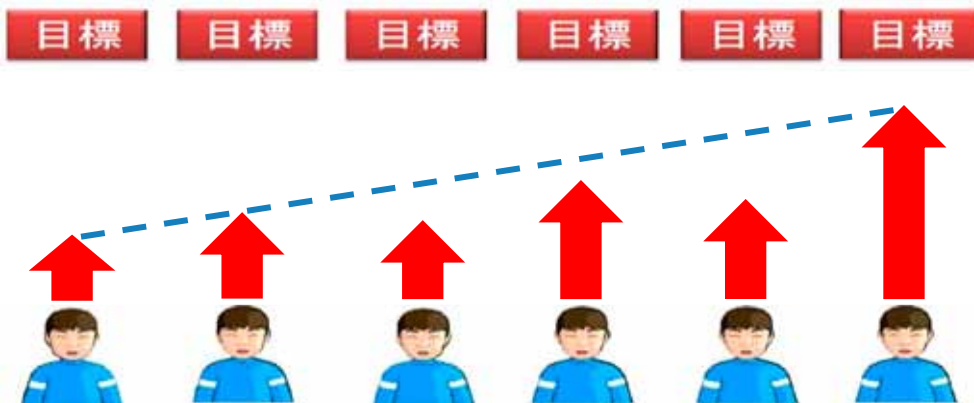
児童生徒の中から異なる意見を取り上げて、周りの子に「この意見についてどう思う？」と問うことで、対話的な活動が生まれるなあ。

道徳科の評価は、個々の内容項目ごとではなく、大きくりなまとまりを踏まえた評価として実施します。



1学期に12単位時間を行ったとすれば、12単位時間のまとまりの中で学習状況を見とります。その中で、特に突出して素晴らしい様子が見られた（例えば礼儀や公正の授業の）学習状況について、評価の記述をすることが考えられます。

- (例)・「特に、『～』の授業では『～』と考えていました。」
- ・「特に、親切・思いやりの授業では、本当の親切とはどのようなことかを自分の立場と相手の立場を比べながら考えていました。」
  - ・「特に、生命の尊さの授業では、教材のお話と身近な祖父との死を重ね、生命は唯一無二のかけがえのないものであることを実感していました。」



徐々に成長する様子を把握し、記述することも考えられます。

- (例)・「道徳ノートに『～』と書くなど、考えを深められるようになりました。」
- ・「教材で学びながら、登場人物を自分に置き換えて、自分のこれまでの生活を振り返ったり、友達の考えを聞いて、一つのことを様々な見方で捉えたりして、よりよい生き方について『～』と書くなど考えを深められるようになりました。」
  - ・「常に自分に厳しい目をもって、授業では自分を振り返り、反省するような考えも観られるようになりました。しかし、それは、今のあるべき自分をしっかりと捉えている表れであり、これからの道徳の授業で、どんな自分を作りあげていくのか、とても楽しみにしています。」

文部科学省資料から作成